

# 令和6年度 まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

開催日時	令和6年8月21日(水)	9時30分～10時30分
開催場所	半田市役所 大会議室	
会議次第	<b>【議題】</b> <b>基本目標3「若い世代に選ばれる「まち」をつくる」</b> ①所管課長説明 ②質疑 ③評価	
出席委員	(委員長) 鈴木委員長 (委員) 亀山委員、福井委員、河治委員、遠藤委員、林委員、 沢田委員、福田委員、山本委員	
事務局	企画課長、企画課(内田・中村)	
出席職員	市民協働課長、市民協働課主幹、国保年金課長、子ども育成課長、子育て相談課長、幼児保育課長、都市計画課長、市街地整備課長、学校教育課長、図書館長	
<b>議事概要</b>		
①所管課説明	資料及び事前質問回答に基づき、説明(企画課長)	
②質疑	<b>【委員】</b> JR 半田駅前土地区画整理事業について、建物移転等に係る地権者との契約や区画整理工事は計画通りに進捗しているか。 <b>【市街地整備課長】</b> 地権者ごとに様々な事情がある中で交渉を進めている。毎年何件というように契約件数を積み上げられているわけではないが、令和9年度の事業完了に向けては、各地権者との交渉を着実に進めている。  <b>【委員】</b> 不妊治療費助成事業について、令和6年度予算額(27,001千円)が令和5年度(8,849千円)と比較して多額であるのはなぜか。申請状況の変化によるものか。 <b>【子育て相談課長】</b> 予算策定のスケジュールの都合上、令和6年度予算額は、令和5年度決算額が確定する前に策定したものであるため、令和6年度予算は令和5年度予算と同程度の金額で設定した。令和5年度予算に対して実績(執行)が少なかったことが令和5年度決算額と令和6年度予算額との間でかい離が発生した理由である。 令和5年度の実績(執行)が少額となった要因は、助成制度を大幅に改正したことにより、予算を過大に見積ったためである。予算見積の段階では、高額療養費制度のみを利用する場合の見積りを行っていた。しかし、実績としては、各健康保険組合の独自助成である付加給付金の利用者が多くいたことにより自己負担額が軽減され、それに伴い助成額も少額となった。 <b>【委員】</b> この助成制度がより活用されるよう、さらなる周知やPRを期待している。	

**【委員】**

民間保育所運営事業と地域型保育事業は、補助対象の違いなどにより事業が分かれているという認識でよいか。

**【幼児保育課長】**

補助の対象となる事業所の区別の違いによるものである。民間保育所運営事業は一般的にイメージされるような民間保育所であり、地域型保育事業は0～2歳児保育が中心の小規模保育事業所である。

**【委員】**

子育て支援センターのプレイランドとはどのような施設か。

**【子ども育成課長】**

クラシティの3階にある子育て支援センターのうち、子どもたちが遊べるエリアのことをプレイランドと呼称している。

**【委員】**

半田乙川中部土地区画整理事業に関連して、乙川地区周辺の住民は名鉄阿久比駅も利用していると聞いたことがあるが、半田市の地域公共バスに阿久比駅方面の路線はあるか。

**【都市計画課長】**

現状、阿久比駅方面の地域公共バスの路線はない。

**【委員】**

行政区が異なっているのは理解できるが、武豊町の地域公共バスが名鉄青山駅（半田市内）も路線に組み入れているように、地域住民の利用しやすさもふまえて阿久比駅の組み入れを検討することはないか。

**【都市計画課長】**

必ずしも行政区でバス路線を区切るものではなく、地域公共バスの路線は各地域の住民が参加するバス会等で協議しながら検討している。現段階では、阿久比駅への路線を望む声は出ていないため、検討はしていない。

**【委員】**

調査をしてみないとニーズも把握できないと思うが、その調査はしないのか。

**【都市計画課長】**

バス会での協議等において、バス路線のニーズを都度吸い上げていく。阿久比駅に限定してニーズ調査等を行う予定はない。

**【委員】**

シティプロモーション推進事業について、高校生・大学生と連携した半田の魅力発信の取組はどのような内容であるか。

**【企画課長】**

はんだ市報を活用した情報発信を行った。高校生と連携した取組として、市内5つの高校の生徒に、半田市で学ぶ高校生という視点での記事作成を依頼し、市報に掲載した。掲載にあたっては、ほとんど市の手直しをせず、高校生の素直な文章のまま表現できるようにした。

また、大学生と連携した取組として、日本福祉大学の学生がSDGsをテーマとして企業への取材を行い、その記事を市報に掲載する企画を

行った。これらの取組について、市報の読者アンケートでは、いずれの記事に対しても好意的な意見が寄せられた。

**【委員】**

同事業のまちへの愛着醸成につながる取組として、半田の魅力発見ツアー等の取組内容について知りたい。

**【企画課長】**

子育て世帯、親子を対象とした取組として、令和5年度には「Fun&Fan ツアー」を新たに実施した。この企画は、0～3歳の小さな子どもがいる世帯を対象として、クラシティの子育て支援センターや市内の子育てサークル、子育て関連の施設を巡るツアーである。このツアーは市内をバスで巡る企画であるため、移動の道すがらに市内の観光施設を紹介することもできた。

ツアー参加者へのアンケートでは、「今まで知らなかった子育て施設に行けてよかった」、「半田市で子育てするイメージができた」など、好意的な回答が得られた。

**【委員】**

高校生・大学生との連携や若い世代へのアプローチの取組について、積極的に行えていることが分かった。

シティプロモーション推進事業としては、広告掲載も実施しているが、その効果についてはどう考えているか。また、どの自治体にとっても難しい課題であるが、プロモーション活動が半田市への移住・定住にどの程度つながっているといえるか。

**【企画課長】**

移住・定住に直結するかという点では難しいが、本市を認知し、関心をもち、訪れ、魅力的に感じ、移住時の候補にしてもらえるよう、各段階でのプロモーションを進めていきたいと考えている。

広告掲載に関連して、令和5年度までは、西三河地域の地域情報誌「chaoo」において、本市の魅力をPRする記事掲載を行っていた。情報誌によるアンケートでは、425件のうち133件が本市を訪れてみたいという回答が得られたため、一定の効果は見られたものの、若い世代への訴求という点では課題が残る取組であった。プロモーション事業は、効果的と見込まれる取組に早い周期で切り替えていくべきであるため、「chaoo」への記事掲載は令和5年度をもって終了とした。

また、令和5年度にはインスタグラムへの広告掲載を新たに実施した。広告配信にあたっては、居住エリアや年代の対象を絞り、半田の魅力発見ツアーやFun&Fan ツアー、第九回はんた山車まつり、ふるさと納税の広告を打ち出した。インスタグラムの広告は、ターゲットの選定やインプレッション数等の効果測定がある程度可能であるため、令和6年度においても引き続き実施していく。

**【委員】**

子育て支援センター事業について、評価表には「年間347日の受け入れ、利用時間を7時30分から19時までとして働く親にも利用しやすい環境を提供した」とある。令和5年度事業において、この日数・時間帯での受入体制はいつ変更したものか。

	<p><b>【子ども育成課長】</b> 受入の日数や時間帯については、直近では変更していない。月に1回のクラシティの休館日と年末年始を除いた347日間に受け入れている。</p> <p><b>【委員】</b> 学校生活支援事業について、評価表には「学校生活支援員や特別支援学級補助員の適切な人員配置を行った」とある。この人員配置の内容について知りたい。</p> <p><b>【学校教育課長】</b> 学校生活支援員については、学校規模、学級規模に応じて、支援員を配置している。また、特別支援学級補助員については、各学校の特別支援学級における児童生徒の障がいの程度等に応じて補助員を配置している。</p> <p><b>【委員】</b> 令和5年度において、配置の考え方や人員枠を大きく変更したということではないのか。</p> <p><b>【学校教育課長】</b> 配置の基準等は都度見直しを実施しているが、令和5年度に大幅な変更を行ったというものではない。</p> <p><b>【委員】</b> 合計特殊出生率の実績値について、全国平均等と比較した場合の分析などは行っているか。</p> <p><b>【企画課長】</b> 全国的に合計特殊出生率が低下傾向にあることは把握しているが、全国的な年度ごとの傾向と本市の傾向との関連については分析していない。</p> <p><b>【委員】</b> いじめ・不登校対策事業について、評価表には「いじめや不登校など児童生徒の問題行動に対して～」とあるが、いじめや不登校を問題行動としてまとめてしまうことに疑問がある。この辺りの捉え方や表現について、変更する必要があるように感じる。</p> <p><b>【学校教育課長】</b> 見直しを行う。</p> <p><b>【委員】</b> 事業に関連する親子が見たときに納得できる表現にしていけるとよい。</p>
③評価	<p><b>【委員】</b> B評価。 全体的なKPIの達成度を見ると、さらなる工夫や取組が必要といえる。</p> <p><b>【委員】</b> C評価。 全体的なKPIの達成度が伸び悩んでいる。</p>

**【委員】**

B評価。

そもそも目標値自体がかなり高く設定されているため、達成度が伸び悩んでいる。

**【委員】**

B評価。

子育て支援やシティプロモーションは中長期的でないと効果が測れないことや人口の推移をふまえた評価とした。

**【委員】**

B評価。

これまでの事業評価を経年で見たとときの状況や、目標値自体がかなり高く設定されていることをふまえた評価とした。

**【委員】**

A評価。

合計特殊出生率を始めとした指標について、近隣・類似自治体の傾向もふまえたうえでの分析ができるとより説得力のある議論ができると思う。

**【委員】**

C評価。

達成度が伸び悩んでいることやこれまでの事業評価を経年で見たとときの状況をふまえた評価とした。

**【委員】**

B評価。

いじめ・不登校対策事業では、他機関連携にも取り組んでおり評価できる。市立保育園管理運営事業に関連して、ICTシステムの「コドモン」の導入は保護者の負担軽減につながると思う。子育てや保育にとって、対人的な関わりは不可欠である。デジタル技術を活用すべき領域と活用すべきでない・対人的な触れ合いを重視すべき領域を分けて考えながら各取組を進めてほしい。

KPI「これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合（39歳以下）」について、アンケートの回答が「どちらでもない」という回答が多いという結果であった。これについて、さらに深掘りして分析を進められるとよい。

**【委員】**

B評価。

KPIの達成度のほか、目標と課題とのつながりへの意識や効果検証を行っていることについて一定の評価ができる。

全体としての評価は、 B評価。